



風かおる
人が輝き
躍動するまち

とままえ

9

No. 613



まちひと百景

プロ選手から技術と心がまえを学べ!

町体育協会主催による北海道日本ハムファイターズ野球教室が町野球場で行われ、地元の野球少年団員や中学生などが参加した。

立石・牧谷両選手からは「1日の練習をおろそかにせず、意識して取り組むことが大切。1日の差は少ないが、半年・1年後の差は大きい」との叱咤激励が。

参加者も厳しいプロの世界を経験した両選手からの言葉に、きっと何かを感じたに違いない。

- 町民劇が始動へほか… 2
- 郷土資料館特別展ほか… 3
- 七夕夕市ほか… 4
- 苫前・古丹別ふるさとまつりほか… 5
- 国民年金・川柳… 6
- 健康ばんざい… 7
- 学びの広場… 8
- 介護保険ガイド… 9
- 住まいる情報… 10～11
- ちびっ子ギャラリー… 12

まちの人口

人口/3,538人 (男/1,680人/女/1,858人)
世帯数/1,641世帯 (8月31日現在)

URL:<http://www.town.tomamae.lg.jp>

5回目の町民劇が始動へ！



7月24日(火)に公民館で町民劇実行委員会が関係者など9名が集まり、本年度の公演に向けた協議が行われた。

町民劇はこれまで「風受けて」「1939インディガルカ号」「冒険者たち」「ドルフとイッパイアッテナ」の4公演を実施している。

この日も8月中旬に台本決めと出演者の顔合わせ、8月27日(月)に第1回目の稽古を行い、第5回公演が12月8日(土)午後6時30分開演予定で進めることが決まった。

町民劇実行委員会の松岡満雄実行委員長は「町民の方からいつ公演するのかという期待の声も聞こえている。仕事等で大変だと思いが、成功に向け協力をお願いしたい」と語った。

社団法人留萌地方法人會 苫前支部が苫前町内会へテントを寄贈

7月25日(水)に商工会館で社団法人留萌地方法人會 苫前支部(渡部一男支部長)が地域社会貢献事業として苫前町内会へイベント用テント2張を寄贈した。

法人會は中小企業や個人事業主を会員に納税意識の向上から企業・社会の発展を目的に活動している任意団体で、苫前支部では地域イベント等でお客様が参加できる環境づくりを行うことで、地域等の活性化に寄与することを目的に今回実施されたもの。

この日は同支部の前田久義副支部長より斉数範章町内会長と金田武會計に手渡され、斉数会長は「町内会行事等で活用させていただきたい。ありがとうございます」とお礼を述べた。



少し肌寒いけど外で飲むお酒はウマイ！ ～古丹別商業部会夏まつりビアガーデン～



7月28日(土)に留萌信用金庫古丹別支店横特設会場で古丹別商業部会(西裕正部会長)による夏まつりビアガーデンが開催され、約300名がお酒で喉を潤した。

同部会によるイベントは2回目。苫前商業高等学校吹奏楽部によるオープニングの後ビアガーデンがスタート。テント内ではビールや日本酒、焼酎のほか、焼き鳥、枝豆などのつまみ類や子ども用のスーパースポールすくいなどの出店が並んだ。

この日は晴れ間がのぞくものの少し肌寒く感じる天候だったが、来場された方々はお構いなし。冷たい飲物で喉を潤し、テーブル同士で会話に花が咲いていた。

電化製品やキャンプ用品が当たるビンゴ大会では、お酒の勢いもあり、会場内は盛り上がりを見せていた。

学習進んでいるよ ～学びの寺子屋～

主催の町教育委員会からは「学習は毎日取り組むことが大切。短い期間だがしっかりと取り組み、学習が習慣となるよう期待したい」と挨拶。

参加した児童生徒は学校で出された課題やドリルなどを持参し、学習支援員や教員から調べ方や解き方のヒントをもらい、真剣に取り組んでいた。

家庭学習の習慣づけを後押しする事業として昨年より開催されている学びの寺子屋が7月30日(月)から8月1日(水)までの3日間で苫前地区はとままえ温泉ふわつと、古丹別地区は町公民館で開催された。

参加希望登録者は苫前地区が25名、古丹別地区が24名で苫前で約4倍の伸びとなり、期間中で苫前地区は延べ63名、古丹別地区は延べ56名が学習に取り組んだ。



光回線誘致に向けた仮申込書と要望書をNTTへ提出



本町に光回線誘致のため仮申込書の受付などの活動を実施してきた町フレックツ光を誘致する会(奥山和彦代表)が、町内に誘致のために必要である360件を超える387件の仮申込書が集まったことから、森町長と星野恭司町議会議長の連名による要望書とあわせて、7月30日(月)に役場町長室でNTT東日本株式会社旭川支店の酒井浩一支店長に手渡された。

手渡された酒井支店長は「こんなに早く住民の理解を得ていただけだと思っていなかったが、この要望書と仮申込書を持ち帰り1日も早くサービスが提供できるように進めたい。サービスが提供できることは間違いない」と述べた。

奥山代表も「事業所のほとんどは誘致へ了解をいただけた。住民の中には早くサービスを利用したいとの声もあった」と酒井支店長に状況を説明した。

郷土資料館特別展「樺太展」

～道北地区博物館等連絡協議会巡回展～



来館者は当時、日本が樺太を統治していたことも知らなかった人も多かったようで、熱心に見入っていた。

代の様子を紹介していた。樺太と稚内を結ぶ航路の港があった大泊などまちの様子や産業、風景を紹介している。

この特別展は道北地区博物館等連絡協議会の巡回展として稚内市郷土資料館が所有しているパネル26点と日本とロシアの国境4ヶ所に設置されていた国境標石のレプリカなどを展示、樺太を日本が統治していた時代の様子を紹介していた。

7月30日(月)から8月5日(日)まで7日間、郷土資料館で特別展「樺太展」が開催された。

泳ぎが上手になりたいの ～夏休みジュニアスイミングスクール～

小学生1年生を中心としたグループでは、水中の中に設置したフラフープをくぐったり、ビート板を使っている水の慣れをきたよう、笑顔を見せながら楽しんでいました。

毎年この時期に行われる同事業は児童にとっても人気がある。参加者は準備体操をした後に、泳力別にクラス分けされた各グループでそれぞれの指導者から指導を受けた。

7月30日(月)から8月2日(木)までの4日間で夏休み中の児童を対象としたジュニアスイミングスクールが開催され、小学校1年生から6年生までの43名が申込み4日間で延べ167名が参加した。



手塩に掛けて育てた乳牛を披露 ～平成24年度(第59回)苫前町乳牛共進会～



審査は未経産牛・経産牛それぞれ4部門に分け、本年度審査委員の株式会社野澤組札幌営業所の岸上裕司副所長が体貌と骨格、肢蹄、乳器など総合的なバランスがどうかを凝視していた。今回の結果は次のとおり。

冒頭の挨拶で森町長、間宮英明町議会副議長は「この共進会で優秀とされた牛は、道北大会や全道大会においても良い成績を収めているため、非常に楽しみである」と挨拶し、審査が始まった。

8月3日(金)に上平共同利用模範牧場で平成24年度(第59回)苫前町乳牛共進会が開催され、町内の酪農家8戸が丹精込めて育てた乳牛27頭を出陳した。

各 部	名 号	出陳者
第1部未経産牛(6ヶ月～12ヶ月未満)	クレスト チュンキー ブラクストン エメリア	中 嶋 卓 広
第2部未経産牛(12ヶ月～14ヶ月未満)	クレスト サム オブ デイーバ	中 嶋 卓 広
第3部未経産牛(14ヶ月～18ヶ月未満)	グリーデイル デイストライ デラップ	グリーデイルクラブ
第4部未経産牛(18ヶ月～22ヶ月未満)	クレスト マストロ シャンタナ	中 嶋 卓 広
第5部経産牛(30ヶ月未満)	ウイング バーンズ アレス	伊 藤 雅 史
第6部経産牛(30ヶ月～36ヶ月未満)	ウイング バーンズ フィーバー	伊 藤 雅 史
第7部経産牛(36ヶ月～48ヶ月未満)	クレスト MF ポンテ ジェラード	中 嶋 卓 広
第8部経産牛(48ヶ月以上)	V バッカイ クリント	(株)ビレッジファーム
最高位賞(未経産牛の部)	クレスト サム オブ デイーバ	中 嶋 卓 広
最高位賞(経産牛の部)	クレスト MF ポンテ ジェラード	中 嶋 卓 広
ベストプロダクション賞	フォーカスト ドルマン チャーマー	丹 羽 秀 樹
ベストプロダクション賞	V バッカイ クリント	(株)ビレッジファーム

公民館講座「木のおもちゃづくり」



8月4日(土)公民館で公民館講座「木のおもちゃづくり」が10名の参加で開催された。講師は、東川町で木工クラフトを製作する鈴木木工房の鈴木秀一さんが務め、トランプや飛行機のおもちゃなどを作った。鈴木さんは「見本はないよ。見本があるから、自分の思い通りに作ってくださる。子どもたちと一緒に作ると、曲がらないうえに、切った後には、大きな息が出るほど、真剣に取り組む、「難しい」と感想を口にした。講師の鈴木さんや助手の伊藤さんのアドバイスのおかげで、参加者は世界に満ち足りた笑顔を見せた。

七夕を大勢で楽しむ ～JA苫前町夕市実行委員会による七夕夕市～



8月4日(土) JA苫前町駐車場でJA苫前町夕市実行委員会による七夕夕市が開催され、多くの住民が来場した。

あいにくの曇り空で今にも雨が降りそうな天候の中、焼き鳥、カレーライス、苫前産「春よ恋」を使ったパン、生ビールなどの出店の他、子ども向けじゃんけん大会やもちまき、農協職員らで結成された「男子五楽坊」によるサマーライブなどの催しを楽しんだ。

また、抽選用のカードを買い求める列ができるほど、毎年人気があるお楽しみ大抽選会では自転車や炊飯器・空気清浄機など計79品の景品が用意されていることもあり、自分の番号が呼ばれないかとハラハラしている様子があちらこちらで見られた。

夏休みの思い出に ～夏休み公民館宿泊体験事業～

1日目の古丹別川での野外体験では、留萌振興局留萌建設管理部事業室の鈴木政輝治水課長らが講師となり、古丹別川の流れや堆積土砂の違いなどを霧立峠と水辺の楽校の2ヶ所で実施、川水の採取を行い、上流、中流、下流の水質の違いを実際に確認、川を汚さないためにはどのようなことが必要かを考えた。

8月8日(水)～9日(木)までの1泊2日間、公民館で夏休み公民館宿泊体験事業が町内の小学生7名と本町にスポーツ合宿として来町していた札幌光星高等学校バスケットボール部6名がボランティアとして協力し開催された。

この事業は買物や料理などの生活体験や野外活動、町内巡りなどの活動を通して自立心や協調性、社会性を学習することを目的に開催。



袋いっぱいでも重くない！ ～花井秀昭さんが両保育園(所)園児をミニトマト狩りに招待～



8月9日(木) 岩見で農業を営んでいる花井秀昭さんが自身のビニールハウスに古丹別保育園(川森の子所長)の年長組の園児10名を招待、ミニトマト狩りを体験させた。

最初に花井さんからトマトのもぎ方の指導を受けた後に、トマト狩りをスタート。真っ赤になったミニトマトを慣れない手つきで一つひとつ収穫、ビニール袋へ入れていた。

園児は「手にトマトのにおいがついた」「年少組のお友達にもあげるんだ」と言いながら袋いっぱいになるまで、トマトを収穫した。中には、トマトをほおぼる園児もいて「おいしい」と微笑みながら、トマト狩りを満喫していた。

同月4日(土)には苫前保育園(青木久美子園長)の園児も招待、トマト狩りを体験した。

がんばれば夢はかなう！ ～北海高等学校野球部の西村拓真くんが後輩に野球指導～

この日は少年団員や中学校野球部員を相手にランニングなどのウォーミングアップを行った後、投球方法の指導や実際に自身も見本を見せるなど約2時間に渡り行った。

質問コーナーでは「北海

古丹別中学校を卒業し、札幌市内の北海高等学校に進学、野球部員として甲子園を目指していた西村拓真くんがお盆で帰省した8月13日(月)に母校を訪れ、後輩の同中学校野球部員や地元野球少年団員に野球指導を行った。

西村くんは、全国高等学校野球選手権大会南北北海道地区大会1回戦の函館高等学校と先発し、8対0と完封したものの、その後登板機会がなく、チームも準決勝で敗退し、甲子園出場を逃した。



高校での辛い練習はどんなものか?」「プロに進む予定はあるのか?」などが参加者から寄せられた。

西村くんはプロ野球については「高校を卒業してすぐは難しいので、大学に進学し力をつけたい。昔から広島カープが好きなので、行けるとしたら広島に入団したい」と意欲をのぞかせた。

また、後輩には「投げるときにどうしても力が入ってしまうので、肩を壊すこともある。今のうちから練習の後はアイシングをするなどして肩を痛めないようにした方がよい」「野球をするのであれば走ることが重要。1日1日の練習をムダにしないよう真剣に取り組んだ方はよい」とアドバイス。

参加者は先輩からの言葉に真剣に耳を傾けていた。



夏の終わりを楽しむように!



◀古丹別ふるさとまつり 苫前ふるさとまつり▶



悲しみはいつまでも癒えることはない ～戦没者追悼式～



8月17日(金)とままえ温泉ふわつとで平成24年度戦没者追悼式が遺族・来賓などあわせて約60名が参加し挙行された。

町戦没者追悼式実行委員会実行委員長の森町長は「半世紀余を超えての時は流れては、悲惨な記憶を風化させているが、戦後の焼け野原から世界の日本へと躍進させた先人の偉大なる遺産が我々に引き継がれており、現在直面している課題や逆境をはねのけるものと信じている」と式辞を述べた。

苫前町議会の星野恭司議長や北海道知事、北海道連合遺族会長、町遺族会長からの追悼のことばの後、遺族・来賓等が1人ひとり献花を行い、戦没者の冥福を祈った。

元プロ野球選手から直接指導 ～北海道日本ハムファイターズ野球教室～

冒頭で主催である町体育協会の平田日出男会長より「今日参加している皆さんは一生懸命に野球に取り組んでいると思うが、小さなマチではプロの選手から教えてもらうことが少ないことから、体育協会が企画・実施することとした。今回学んだことをしっかりと自分に活かしてほしい」と挨拶した。

指導前に立石さんは「短い時間ですが、野球を楽しんでもらい、少しでも上達

8月17日(金)町野球場で北海道日本ハムファイターズ野球教室が地元青少年団員、中学生などあわせて32名の参加で開催された。

この日指導にあたったのは、元日本ハムファイターズで投手を務めた立石尚行さんと牧谷宇佐美さんの二人。



最後に立石さんからは「意識して練習に取り組む1日の練習をムダにしない。あいさつと感謝の気持ちをもつてほしい」、牧谷さんからも「基本ができていないと応用ができない。うまくいかないことを経験してうまくなっていく。皆さんのチームの監督の練習方法が基本となるので、今日の成果を活かしてほしい」と参加者にエールが送られた。

教室ではボールの握り方や投げ方、取り方、バッティングなどの基礎的なことを中心に約2時間半個別アドバイスを受けながら行われた。